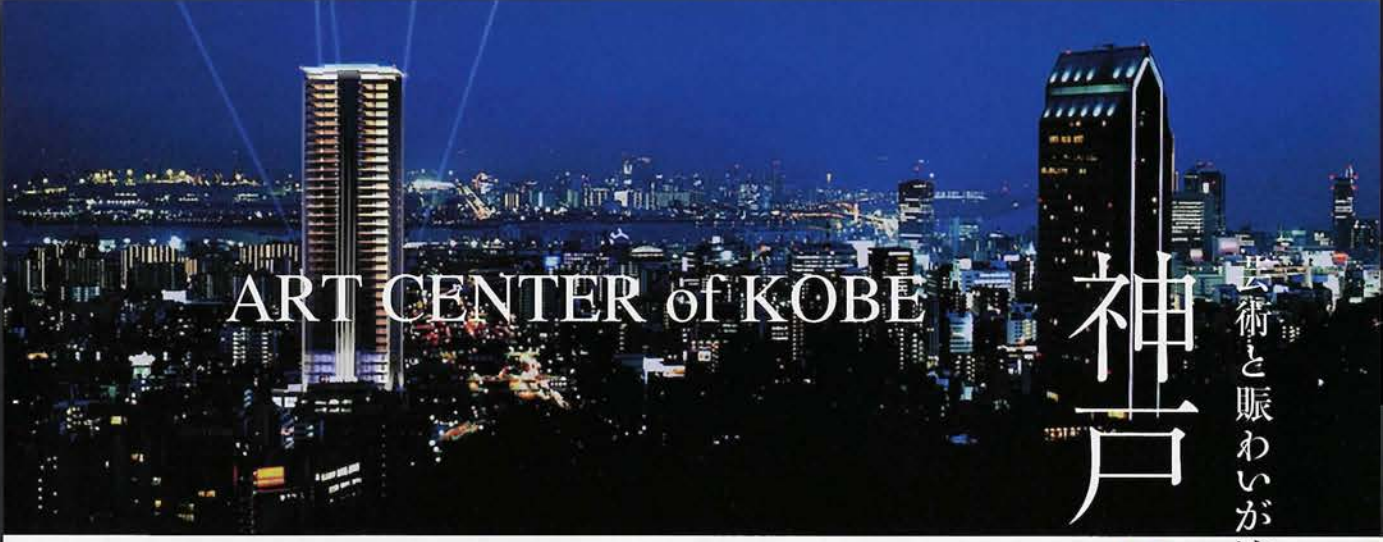

神戸芸術センター

芸術と賑わいが演出する新しいランドマーク

株式会社　村井敬合同設計
代表取締役　**村井　敬**さん

ART CENTER of KOBE Vol.1

神戸・布引にまた新しいランドマークが誕生しようとしている。芸術と賑わいの演出をテーマに、08年1月オープンを目指し建設が進められている「神戸芸術センター」。東洋最大級規模の「神戸芸術ホール」やスタジオコンプレックスをはじめ、商業施設、集合住宅、スポーツ施設などを兼ね備えた37階建ての建築物。東京に続いて、神戸での芸術センター建設を手がけた建築家・村井敬さんに、その思いをお話しいただいた。

住まうだけでなく、日々の暮らしを彩る住まい

神戸芸術センター
ART CENTER of KOBE

芸術劇場や音楽ホールなど神戸の新たな芸術文化を発信する施設や、低層部に配置された生活利便施設が日々の暮らしを彩ります。

FLOOR INFORMATION

高品質賃貸住宅 *Residence*	7−37F
オフィス *Office*	4−6F
芸術劇場 *Auditorium*	1−3F
音楽ホール *Theaters*	2F
フィットネス *Fitness*	1, 3F
スイミングプール *Pool*	1, 3F
レストラン *Restaurant*	1−3F
スーパーマーケット *Supermarket*	1−3F
ミュージアムショップ *Museum shop*	2F

大切なのは建物でなく、生きた中身

「神戸芸術センター」を造るにあたり、私は「東京芸術センター」の経験を生かしたいと思っています。ステージに立つ人、見に来る人、その他すべての「使う人」のリアクションを生かす。これを無視しては、ただの一人よがりになります。建物は竣工して終わりではなく、大切なのはそこから。竣工までは幸せだ

神戸芸術センター
ART CENTER of KOBE

シングルからファミリー層、外国人エグゼクティブまで幅広い層を対象とした高級賃貸住宅。間取りの広さはスタジオタイプ（約48㎡）からペントハウスタイプ（約405㎡）までご用意致します。

1,100人規模の芸術劇場。可動観客席を採用し、フルオーケストラにも対応可能で劇場・ダンスパーティ・講演会等にも利用できます。

日頃の健康維持・健康増進施設としてプールをご用意しております。

約130席の固定席をご用意した音楽ホールは、音楽の演奏会をはじめ、講演会、映写会など利用が可能です。

ったけど、その後50年は人々を不幸にするというのではダメです。大切なのは建物ではなく、生きた中身ですから。

同じ日本人。違いはそれぞれ街の魅力

そんな話しをすると「東京と神戸は違いますよ」と度々反論されますが、同じ法律の下、同じ通貨を使って暮らす日本人です。情報化が進んだ社会では共通点の方が圧倒的に多いと私は思っています。違いがあるとすれば、それぞれ街の魅力。例えば、神戸で教会のミサに行くと神父さんはもちろん、外国人同士も日本語で喋っているんです！

完全に神戸コミュニティーの一員として暮らしているんですね。東京では考えられない、素晴らしいことだと思います。

建築は街のインテリア

良い建物は街の活性化につながり、あまり好ましくない建物は景観を損ねます。建築は街のインテリア。けれど、外観を統一することを強いてしまったら、後に続こうとする良い物の芽を

村井　敬

●経歴／建築家（一級建築士）
1970年
・東京大学大学院修士課程修了（建築）
現在
・株式会社村井敬合同設計　代表取締役

●受賞／日本建築業協会賞
通産省省エネルギー最優秀賞
大阪心ふれあうまちづくり賞　他多数

神戸芸術センター

●所在地／神戸市中央区熊内橋通7-1-13
●概要／地上37階　鉄筋コンクリート造
●竣工予定／2008年1月

摘んでしまいます。約50年という減価償却期間が過ぎて「いい物を造ってくれてたんだ」と分かってもらい、良い街並みを造ろうという意志を受け継いで欲しいということです。

埋もれた才能を披露できる場に！

神戸芸術センターには、１１００人規模のホールと、敢えて１４０人程度のリサイタルホールも4つ作りました。動員をかける必要のない小規模なホールを作ることで、埋もれた才能を披露できる場にしたいという思いです。そして私の理想は、上手な演奏は上手に、下手な演奏は下手に聞こえるホール。日本の芸術家が世界でなかなか通用しないのは、環境が良すぎるからではないでしょうか。どんな環境下でも、それを生かして演奏することが向上につながります。お風呂で歌ったら誰でも上手に聞こえるでしょう。それで満足していては上達がないのと同じですよ（笑）。

どんどん意見を言ってください

当初は皆さん戸惑ったのではないでしょうか。突然、私みたいな建築家が東京から落下傘で降りて来て、「神戸芸術センター」と名づけてしまったわけですから（笑）。幸い今では、たくさんの方々に応援いただき心強いかぎりです。今後も皆さんと、考えのズレは生じるとは思いますが、意見をどんどん言ってください。それを生かしながら、「神戸にできて良かった」と言っていただき、私たちも「神戸に造って良かった」と言える施設にしていきたいと思っています。

AWARD★神戸っ子賞★KOBECCO 16

第16回 神戸っ子賞

月刊神戸っ子創刊30周年を記念して創設した「神戸っ子賞」は、分野を問わず、長年の活動の蓄積によって、神戸文化の振興とイメージアップに功労のある方に賞を贈らせていただきます。
（授賞式は4月4日神戸ポートピアホテルにて）

石井（いしい） 好子（よしこ）
〈シャンソン歌手〉

選考委員

新野幸次郎
石阪春生
武田則明
小泉美喜子

BM

第35回 ブルーメール賞

月刊神戸っ子創刊10周年を機に、神戸の文化を推進するために設立された文化賞「ブルーメール（青い海）賞」。各部門別に選考会を開催した結果、左記の5名様に賞を贈らせていただきます。
（授賞式は4月4日神戸ポートピアホテルにて）

文学部門

横林（よこばやし） 哲也（てつや）
〈作家〉

選考委員

島京子
竹内和夫
野元正

第16回神戸っ子賞　第35回ブルーメール賞　協賛企業

fls CO.,LTD.
santica
伊藤ハム 伊藤ハム株式会社
〈ひょうしん〉兵庫信用金庫
UCC UCC上島珈琲株式会社
Sysmex シスメックス株式会社

ファッション部門

小田（おだ） 倶義（ともよし）
〈株式会社イズム代表取締役
財団法人
神戸ファッション協会会長〉

選考委員

西川 勝実
鈴木 章子
見寺 貞子
小泉美喜子

舞台芸術部門

河合（かわい） 美智子（みちこ）
〈モダンダンサー〉

選考委員

佐野 漣箕
岡田 美代
井村 顕彦

美術部門

神野（かんの） 立生（りつお）
〈版画家〉

選考委員

河崎 晃一
岸野 裕人
川辺 雅美

音楽部門

碇山（いかりやま） 典子（のりこ）
〈ピアニスト〉

選考委員

網干 敏也
山村 毅治
響 雅

第16回神戸っ子賞　第35回ブルーメール賞　協賛企業

鬼塚喜八郎
株式会社
オールスタイル総本社
KOBE Goncharoff
FELISSIMO
株式会社 フェリシモ
TASAKI

第16回　神戸っ子賞

シャンソンを通じ、文化振興とまちづくりに尽力

石井好子 <シャンソン歌手>

選考経過

神戸のまちづくりや文化振興、経済発展に尽力した人物を表彰する神戸っ子賞。

棋士で永世名人の**谷川浩司**は全国レベルで活躍。「千の風になって」の**新井満**も話題にのぼった。劇団神戸主宰の**夏目俊二**は兵庫県劇団協議会の初代代表としても活躍し、若手育成にも力を注いでいる。バイオリニストの**辻久子**は、数々の演奏会で音楽のまち神戸に貢献。優秀なバレリーナを育成している貞松・浜田バレエ団会長の**貞松融**。神戸外国倶楽部の会長を務めた**フリッツ・E・レオンハート**マリスト国際学校理事長。今年30周年を迎える日韓親善協会の**砂野耕一**会長。建築家の**室崎益輝**は都市問題研究の分野で。旧居留地連絡協議会会長の**野澤太一郎**は、旧居留地十五番館の保存など居留地の景観形成に尽力。**矢崎和彦**フェリシモ社長は経済・文化両面で活躍。

選考委員

小泉美喜子
<本誌総編集長>

武田則明さん
<建築家>

石阪春生さん
<画家>

新野幸次郎さん
<神戸都市問題研究所理事長>

神戸っ子賞　歴代受賞者

1. 淀川長治（映画評論家）
2. 朝比奈隆（指揮者）
3. 陳舜臣（作家）
4. 宮崎辰雄（前神戸市長）
5. 中内 功（ダイエー創業者）
6. 中西勝（画家）
7. 東山魁夷（画家）
8. 妹尾河童（舞台芸術家・エッセイスト）
9. 高村勤（コープこうべ名誉理事長顧問）
10. 新野幸次郎（神戸都市問題研究所所長）
11. 鬼塚喜八郎（アシックス会長）
12. 貝原俊民（前兵庫県知事）
13. 下村俊子（神戸凰月堂代表取締役社長）
14. 林　同春（神戸華僑総会名誉会長）
15. 太田敏郎（株式会社ノーリツ会長）

授賞の**石井好子**は１９８５年から「日本アマチュアシャンソンコンクール」を毎年神戸で開催し、震災後はシャンソンの祭典「パリ祭」のステージも神戸で展開。シャンソンの底辺を広げ、シャンソンのまちづくりに尽力した。神戸大使としても神戸のＰＲに貢献。エッセイストとしても活躍している。多彩な活動と功績が高く評価された。

（文中敬称略）

推薦のことば

神戸市民の誇りにしている行事の一つに「日本アマチュアシャンソンコンクール」がある。これは、ユニバーシアード神戸大会の文化交流事業として昭和六十年にはじまり、あの大震災の年にも市民の支えもあって実行され、今日に至っている。パリ祭コンサートもこれを契機に神戸で開催されるようになり、今や神戸はシャンソンの都市の一つになった。

このコンクールの開催を全面的に支援し、リードして頂いているのが神戸大使でもある石井好子さんである。石井さんはご家族も神戸と縁が深いとおっしゃっているが、そう言えばそのお一人、かつて内閣副総理も務められたご尊父石井光次郎さんも神戸高等商業学校（現在の神戸大学）の卒業生であり、現在大学正門に掲げてある門標「神戸大学」はご尊父の揮毫によるものである。それもあって石井さんは神戸大学卒業生の「凌霜会」でこの最近は全くの善意でコンサートを開いて下さっている。有難いことである。

（新野幸次郎）

第35回 ブルーメール賞　文学部門

生徒たちとのドラマをエッセイに綴った熱血先生

横林哲也〈作家〉

ブルーメール賞文学部門　歴代受賞者

1. 中村隆　（詩）
2. 鄭承博　（小説）
3. 小泉八重子　（俳句）
4. 福元早夫　（小説）
5. 三宅武　（詩）
6. 秋吉好　（小説）
7. 江頭越子　（詩）
8. 桜井利枝　（小説）
9. 梅村光明　（詩）
10. 吉保知佐　（小説）
11. 季村敏夫　（詩）
12. 福岡勝利　（小説）
13. 時里二郎　（詩）
14. 松尾美恵子　（評論）
15. 武田信明　（詩）
16. 山西史子　（小説）
17. たかとう匡子　（詩）
18. 森栄枝　（小説）
19. 田中紀子　（詩）
20. 夏巳ゆらこ　（小説）
21. 渡辺信雄　（詩）
22. 吉田典子　（小説）
23. 村中秀雄　（詩）
24. 大塚雅子　（評論）
25. 増田まさみ　（詩）
26. 野元正　（小説）
27. 岩崎風子　（詩）
28. 毛丹青　（エッセイ）
29. 由良佐知子　（詩）
30. 北原文雄　（小説）
31. 今村欣史　（詩）
32. 上村武男　（小説）
33. 水こし町子　（詩）
34. 高橋冨美子　（詩）

選考委員

野元正〈作家〉

竹内和夫〈作家〉

島京子〈作家〉

選考経過

文学部門は、詩と散文が隔年で交互に対象となる。今年は、散文作品が選考の対象に。

受賞の**横林哲也**は、今年一月に、自身の教師生活の中で出会った生徒たちをえがいたエッセイ集『こどもの心は飢えている』を出版。

他の候補作は、同人誌「鬼子」に寄せた短編『不信』が評価された**三田地智**。**夏当紀子**の『鳥が飛ぶ日』は、数多い作品の中から文学賞受賞作を中心に七つの秀作をおさめた。新作『廃墟の月』が注目された**伊藤礼子**。桃山時代の絵師・海北友松を追うエッセイ『海北友松を歩く』の**今井ふじ子**。そして、戦後の文壇に彗星のごとく現れ二十一歳で命を絶った芥川賞候補作家・久坂葉子の生誕七十五周年を記念して、久坂自身の遺稿や最新の研究論文、遺族へのインタビューなどを収録した『**神戸残照 久坂葉子**』（柏木薫・志村有弘・久坂葉子研究会編）も候補にあがった。（文中敬称略）

2007年　ポプラ社刊

康子は親に突っ張り、教師に突っ張り、すべての大人に挑戦するかのように反発を続けた。

眉を剃り、髪を染め、口紅、マニキュア、遅刻、中抜け、外泊等々、あらゆる校則違反を繰り返し、学年主任の私を困らせ、激怒させ、疲れさせた。

しかし、康子は時々であるが面接のときに自宅で飼っている犬の話をすることがあった。そして必ず話の最後に、

「先生、家で私の気持ちわかってくれるのは、犬のチビだけなんや」

と言うのである。

私はいつもその言葉を聞くたびに、康子の寂しさや甘え先を求めている気持ちを思いやると同時に、（この子は、寂しいだけなんや、いつかきっと立ち直ることができる）という、わずかな期待を持っていた。

（本文より抜粋）

推薦のことば

横林哲也さんは、理科教師として兵庫県西部の県立女子高校に十三年、姫路の浜手の夜間定時制高校に八年、再びもとの高校に戻って四年。クラス担任、学年主任、教頭職と立場も変わったが、常に問題行動を起こす生徒と正面から向き合ってきた熱血先生。

『こどもの心は飢えている』は、特に印象深かった四十七話を、短編小説の連作のような読みやすいかたちでまとめている。

授業妨害、家出、いじめ、暴力、リンチ、自殺未遂、等々、女子高生や夜間高校生たちが巻き起こす事件を生々しく伝える。時には退職覚悟で粗暴な生徒と対決したこと。家庭崩壊の現実に指導の限界を感じて立ちつくした悔しさ、出席日数不足で退学していく生徒を見送る至らなさや、吃音で無口な男子生徒に長距離走者として優れた資質を見て、校内に陸上部を創設させ全国大会に出場させたこと。肥満の女子バスケットボール部員に最後の大会で感動的なシュートを成功させたこと。教師の苦悩や喜びが、四十七話の中からふつふつと湧き出してくる。マザー・テレサの「心で聞く」を、教育の信条とした一教師の優れた実践記である。（竹内和夫）

第35回 ブルーメール賞　音楽部門

千変万化の魔性

碇山典子 〈ピアニスト〉

ブルーメール賞音楽部門　歴代受賞者

1. 田原富子　（ピアノ）
2. 矢野恵一郎（合唱指導）
3. 上月倫子　（バレエ）
4. 今岡頌子　（バレエ）
5. 小石忠男　（音楽評論）
6. 中村茂隆　（作曲）
7. 関晴子　（ピアノ）
8. 坂本環　（声楽）
9. 山内鈴子　（ピアノ）
10. 松本幸三　（声楽）
11. 伊藤ルミ　（ピアノ）
12. 井上和世　（声楽）
13. 末広光夫　（プロデュース）
14. 安芸栄子　（声楽）
15. 延原武春　（指揮）
16. 中西覚　（作曲）
17. 青井彰　（ピアノ）
18. 広岡隆正　（声楽）
19. 戎洋子　（ピアノ）
20. 大前哲　（作曲）
21. 中野慶理　（ピアノ）
22. 田中修二　（ピアノ）
23. 岡本一郎　（リュート）
24. 畑儀文　（声楽）
25. 釜洞祐子　（声楽）
26. アート・エイド・神戸（プロデュース）
27. 鈴木雅明（指揮・チェンバロ）
28. 北浦洋子　（ヴァイオリン）
29. 林　裕　（チェロ）
30. 井原秀人　（声楽）
31. 田中敬子　（ピアノ）
32. 松原千振　（指揮）
33. 唐澤まゆこ（声楽）
34. 尾崎比佐子（声楽）

選考委員

網干　毅
<関西学院大学文学部教授>

山村雅治
<山村サロン代表>

響　敬也
<作家・音楽評論家>

選考経過

海外で活躍する音楽家の名前が続々挙がった。まずオーケストラとの共演なども話題のジャズピアニスト・**小曽根真**。国際的に評価の高い指揮者・**湯浅卓雄**は、昨年、大阪センチュリー交響楽団とシューマン交響曲全曲&主要管弦楽曲・協奏曲チクルスを開催。京都出身でスイスに学んだ**大井浩明**は、ピアノと同時にチェンバロやオルガンを習得し独自の世界を展開する。西宮出身で欧米を中心に活動する若手ヴァイオリニスト・**吉田亜矢子**。作曲家でありピアニストの**久保洋子**。洗練されたア・カペラで定評のある室内混声合唱団ザ・タロー・シンガーズの主宰者・**里井宏次**。神戸出身者の中では、ピアニスト・**藤井快哉**の着実な活動、テノール・**松本薫平**にも期待の声。また、数多くの門下生を輩出しているヴァイオリニスト・**小栗まち絵**の功績が賞賛された。授賞の**碇山典子**は、神戸女学院大学音楽学部ピアノ科を卒業後パリ留学、

全音出版社主催演奏会（2006年11月17日津田ホール）より

推薦のことば

電話で相手が名乗る前に、声で顔が浮かぶことがある。声は、声紋識別が出来るほどに十人十色だ。違う声だから、自分だけの愛の告白も出来る。

音楽でも歌手は勿論、楽器奏者もその人数だけ音色がある。

ところが音楽界で珍しい種族がいて、それをピアニストと言う。この種族は大抵の場合、本番で自分だけの楽器を弾けない。会場にある他者と共有の楽器だ。だから、同じピアノで違った音色を出せるのは、よほど初心者か、よほど高度な水準にあるか、どちらかなのだ。後者は滅多にいない。しかし神戸っ子は安心していい。聴こうと思えば身近に碇山典子がいるから。

神戸で学び、パリで磨きをかけた腕と音楽性は、一瞬にして「これが同じピアノか」と思わせる音の千変万化を現出させる。フランス物を弾いては香気馥郁、現代ものを弾いては機知縦横にして挑戦的、聴く者を羽交い絞めにする魔力を持つ。その魔性ゆえか、今をときめく作曲家達が信頼する名手でもある。

近年の連作CDや様々な舞台での気力充実も良し、まさに上昇の絶好機での受賞なのだ。

（響敏也）

在学中よりフランス各地のコンサートに出演。現代音楽の演奏に定評があり、今年一月にはCD「ラ・カンパネラ」をリリースした。（文中敬称略）

第35回 ブルーメール賞　美術部門

刻み込まれた足跡を評価

神野立生〈版画家〉

ブルーメール賞美術部門　歴代受賞者

1. 山口牧生	(彫刻)	19. 杉山知子	(造形)
2. 丸本耕	(造形)	20. 田中昇	(彫刻)
3. 小西保文	(洋画)	21. 坪田政彦	(絵画)
4. 藤原向意	(版画)	木津文哉	(絵画)
5. 斎藤智	(平面)	22. 片山みやび	(版画)
6. 鄭相和	(洋画)	23. 牛尾啓三	(彫刻)
7. 山本文彦	(洋画)	24. 中井浩史	(絵画)
8. 堀尾貞治	(造形)	25. 奥田善己	(絵画)
9. 榎忠	(造形)	26. 赤崎みま	(写真)
10. 松谷武判	(版画)	27. 宮崎みよし	(造形)
11. 木下佳通代	(平面)	28. 上前智祐	(造形)
12. 宮崎豊治	(造形)	29. 上村亮太	(造形)
13. 藤原志保	(平面)	30. 内藤絹子	(造形)
14. 武田則明	(建築)	31. 山口さとこ	(造形)
15. 石川晴久	(平面)	32. 塚脇淳	(造形)
16. 松原政裕	(平面)	33. 小野田實	(絵画)
17. 植松奎二	(造形)	34. 澤田知子	(写真)
18. 松本薫	(彫刻)		

選考委員

河﨑晃一さん
<兵庫県立美術館常設展・コレクション収集管理グループリーダー>

川辺雅美さん
<西宮市大谷記念美術館学芸課長>

岸野裕人さん
<元兵庫県立美術館学芸員>

選考経過

今回もさまざまな候補者の名が飛び交った選考会。

岡之山美術館で個展を開いた**岸本吉弘**は、独特の質感で空間を表現、神戸大で後進の指導にも尽力している。**善住芳枝**は着実に制作活動を続け、美術教育にも貢献。**松田一戯**は但馬を拠点に木彫作品を発表し、地域の美術活動にも寄与。豊かな色彩の世界を展開する**田中美和**。光と影を印象的に描く**井上よう子**。ボックスアートで活動の幅を広げた**金月炤子**や、コンスタントに作品を発表する造形の**清水浄**も注目される。**山村幸則**の造形、「犬仮面」こと**大川倫弘**のパフォーマンス、**政木貴子**の版画など、楽しみな若手の活躍も話題に。アートイベントでは**リ・フォープ**（代表・宮崎みよし）主催の「地力」展が賞賛された。

受賞した版画家・**神野立生**は、30年の地道な足跡に高い評価が。主催するアトリエ凹凸における若手育成にも定評がある。今回は実績を重視した選考となった。

（文中敬称略）

Traces of Nothingness (2004)
72cm×94cm

推薦のことば

今年のブルーメール賞は、ベテラン版画家神野立生に決まった。神野は日本画を学んだのち1972年から74年までフランス政府給費留学生としてパリの版画工房「アトリエ17」でS・W・ヘイターに学んだ。帰国後、西宮を拠点に今日までコンスタントに制作を続けている。

一版多色刷りという銅版画のなかでも特殊な技法を用いた作品。オートマティックに描かれた線とそれを崩していくように描かれた面は、反発しながら不思議と落ち着いた雰囲気を見せてくれる。版画作品はとかく技術にあやつられがちだが、神野の場合、流動感あるスタイルが思いのままにその特徴をあやつっている。タブローと並行して制作する作家が多い中で、版画にその軸足をしっかりと置いて制作を続ける。ダイナミックであり繊細な作品は、完成度が高く、まさに版画でないと表現できない魅力を伝えている。

もうひとつ神野立生には、アトリエ凹凸の主宰者としての顔がある。多くの版画家が集うアトリエでは、指導者としてその実力を発揮し、版画の普及に努める真摯な姿勢にもその人柄が表れている。

〈河﨑晃一〉

第35回 ブルーメール賞　舞台芸術部門

演出家、振付家、そしてダンサーとして一層の期待

河合美智子〈モダンダンサー〉

ブルーメール賞舞台芸術部門　歴代受賞者

1. 花柳芳恵一子（邦舞）
2. 花柳吉由二（邦舞）
3. 吉井順一（能楽）
4. 花柳芳五三郎（邦舞）
5. 花柳由叟（邦舞）
6. 藤間緑寿郎（邦舞）
7. 尾上菊見（邦舞）
8. 藤井徳三（能楽）
9. 海野光子（仮名手庵歌舞伎）
10. コメディ・ド・フーゲツ（演劇）
11. 加藤きよ子（モダンダンス）
12. 藤田佳代（モダンダンス）
13. 花柳五三輔（邦舞）
14. 白羽弥仁（映画）
15. 松本尚蒔（邦舞）
16. 楠本喬章（笑クリエイト社）
17. 東仲一矩（フラメンコ）
18. 久田徹二（能楽）
19. 大和楽蘭の会（邦楽）
20. 貞松・浜田バレエ団（バレエ）
21. 花柳芳圭次（邦舞）
22. 劇団四季会（演劇）
23. 貞松正一郎（バレエ）
24. 善竹忠一郎（狂言）
25. 花柳小三郎（邦舞）
26. 若柳吉金吾（邦舞）
27. 太田由利（バレエ）
28. 善竹隆司・隆平（狂言）
29. 上甲裕久（バレエ）
30. 藤間莉佳子（邦舞）
31. 阿藤久子（フラメンコ）
32. 小寺一登代（邦舞）
33. 上月倫子バレエスクール（バレエ）
34. 上田兄弟会（能楽）

選考委員

村井顕彦さん
（神戸新聞社取締役）

岡田美代さん
（演出家）

佐野滿箕さん
（元神戸新聞取締役文化事業局長）

選考経過

洋舞では、**波多野澄子バレエ団**の団員たちの実力に高い評価。昨年四月の第七回公演では、演出・振付に深川秀夫を迎え、三つの作品が披露された。多くのコンクールで入賞する優秀なバレリーナを数多く輩出している**江川バレエスクール**。演劇では、**劇団自由人会**の三年前の作品「松陰・吉田寅次郎」、震災十年を機に発表された作品「6年3組の阪神大震災」が話題に。

過去のブルーメール賞受賞者の多くも話題にあがった。まず文化庁芸術祭大賞の**貞松・浜田バレエ団**の特別公演「創作リサイタル18」が絶賛された。日舞の**花柳芳一**、**若柳吉金吾**、**花柳五三輔**、**花柳小三郎**、**大和松蒔**、「第三十回記念藤園会」の**藤間莉佳子**など。能では昨年受賞の**上田兄弟会**、**善竹隆司・隆平**も着実に腕をあげていると評価。

結果、モダンダンサー・**河合美智子**の舞踊家としての実力、昨年の公演「ランゲージ」をはじめとする演出・振付の力量が評価され授賞が決まった。

Dance ランゲージ
（2006 年 9 月 8 日兵庫県芸術文化センター）より

推薦のことば

河合美智子。この人、最近人相が変わった。もちろんいい意味で、である。自らの「モダンダンススタジオ」を立ち上げて3年目。ダンサーとしてはもとより、構成、演出、振付にわたって傑出した感性と才能を発揮してきた彼女だが、これに意地と覚悟が加わった。独立は期するところがあってのことだろう。

昨年9月、兵庫県芸術文化センターで上演された「Dance ランゲージ」は、独立して3作目のプロデュース作品。「想いが動きを創り、空間に描き、様々な言葉を綴る」のサブタイトルのとおり、河合の舞台にかける構え方の一端が表現されていて凄味すら感じさせる秀逸な仕上がりになっていた。ラストの「あなたを忘れない」も「関わって下さった皆さんと、観客の方への感謝のソロにしました」と彼女は言う。

ダンスは自分自身が作品そのものにちがいないが、音響、照明などいわゆる裏方との呼吸が合って完成する。観客とはある意味真剣勝負の世界である。

河合美智子は今、その厳しさをきっとかみしめているのだろう。一層の飛躍を期待したい。

〈村井顕彦〉

第35回 ブルーメール賞　ファッション部門

ファッション都市・神戸の牽引役

小田倶義

〈財団法人神戸ファッション協会会長／株式会社イズム代表取締役〉

ブルーメール賞ファッション部門　歴代受賞者

1. 藤本ハルミ（デザイナー）
2. 米田博司（神戸市心身障害者福祉センター）
3. 市野木悦子（ニットデザイナー）
4. KLTC（コウベジュニアテーラーズ）
5. 太田タマコ（アートフラワーデザイナー）
6. KFS（コウベファッションソサエティ）
7. 「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 神戸市家具青年会
9. KFM（コウベファッションモデリスト）
10. 望月美佐（書家）
11. KFC（コウベファッションクリエーターズ）
12. 村上和子（プロデューサー）
13. 中村一夫（デザイナー）
14. 柴田音吉（神士服／柴田グループ代表）
15. 丹野最世子（デザイナー）
16. 大西節子（デザイナー）
17. 福井恵子（旗の作家）
18. 服部メガネ店
19. 佐藤悦枝（アートフラワーデザイナー）
20. 山本芳樹（ホテルゴーフルリッツ・ファッションライブラリー館長）
21. 大丸神戸店
22. 今岡寛和（神戸ルミナリエ・プロデューサー）
23. （財）神戸ファッション協会
24. VEGAビル（ジャヴァグループ）
25. シューズプラザ（くつのまちながた神戸）
26. 内海和子（ジュエリーデザイナー）
27. 藤井美智子（デザイナー）
28. 高田恵太郎（神戸コレクションエグゼクティブプロデューサー）

選考委員

小泉美喜子〈本誌総編集長〉

見寺貞子さん〈神戸芸術工科大学ファッションデザイン学科教授〉

鈴木章子さん〈神戸ファッション専門学校校長〉

西川勝実さん〈財団法人神戸ファッション協会専務理事〉

選考経過

神戸発のファッションブランドの中でも、あくまでも神戸にこだわり、地域の経済・文化活動にも貢献している企業の名前があがった。イズムグループ代表・**小田倶義**は、財団法人神戸ファッション協会会長、神戸商工会議所ファッション部会長などをつとめ、まさに現在、ファッション都市づくりの先頭に立っている。エコをテーマにした自社ブランド、神戸の風景とともに紹介した映像やカタログ制作、ラジオ番組制作など多方面で活躍する株式会社エフエルエスの代表取締役社長・**荒牧英樹**。株式会社フェリシモの**矢崎和彦**、そして「デザイン都市・神戸の実現に向けて」の提言も話題に。また、神戸ファッション美術館で、毎回ユニークな展示企画を打ち出している学芸員の**浜田久仁雄**、**百々徹**の名前も登場した。

結果、創立25周年のイズムグループ本社ビルが、今年1月にリノベーションオープンのニュースと合わせ、小田倶義の授賞が決定した。

（文中敬称略）

推薦のことば

神戸らしい上品さがあふれ、女の子に大人気のブランドDear Princessをはじめ、BDONNA、IZEなどの人気ブランドをもつイズムグループ。代表取締役社長である小田倶義さんは、神戸ファッション協会会長をはじめ、神戸商工会議所ファッション部会の部会長、昨年4月から神戸ファッション美術館館長をつとめるなど、ファッション都市・神戸づくりの牽引役として活動されている。

また、小田さんが会長をつとめるフラワーロード沿道まちづくり協議会は、フラワーロードをメインストリートにふさわしい沿道にしようと、花壇の整備やクリーン作戦など積極的な活動を行なっている。

今年、そのフラワーロード沿いにあるイズムグループ本社ビルが、リノベーションオープンした。エントランスに、ビードヴェールという美しいガラスをあしらい、通る人々は皆、その輝きに魅了されている。イズムグループがテーマとしている「神戸らしさ」が、小田さんの活躍とともに、ファッション都市神戸、神戸はおしゃれな街というイメージづくりの大きな翼となっていることは間違いない。

〈小泉美喜子〉

Mademoiselle de Kobe

神戸のお嬢さん

明るくやさしい白衣の天使

坂谷　尚美さん
（看護師）

花時計前にて

坂谷尚美さんは、昨年看護学校を卒業し、看護師として働いていらっしゃいます。身体的、精神的にもつらい思いをしている患者さんに、いつも笑顔を絶やさず、明るくしっかり看護をしていて、患者さんからいつも信頼されている素敵なお嬢さんです。

そして保健師としての資格も取得し、広く地域の人々と関わりながら世のためにがんばりたいというしっかりした一面も持ち合わせていて、本当に感心します。これからも、持ち前の明るい性格と優しさで、いろんな方を笑顔にしていってほしいと思います。

推薦者　勝海務
国土交通省
神戸港湾事務所長

神戸のお嬢さん

Mademoiselle de Kobe

素質も笑顔も花と咲くシャンソンの歌姫

劉　玉媖さん
（シャンソン歌手）

4年前、シャンソン教室に入ってきた劉さん。私は彼女を見てピン！と感じるものがありました。「若い子だから続くかしら？」と思いつつ見守っていましたが、みるみる上達…そして去年、第22回日本アマチュアシャンソンコンクールにて見事グランプリを受賞！その後シャンソン歌手としてデビューし、「私の目に狂いはなかった」と実感しています。

神戸親善大使としても活躍。持ち前の明るさと、皆に愛される人柄でいろんなことにチャレンジしながら、自分の進む道を一歩一歩確実に歩んでください。

推薦者　風かおる
シャンソン歌手

花時計前にて

田中まこの
神戸が撮っても好き 23

公道でカー・クラッシュも！ 北野や旧居留地が撮影の舞台に…

5月公開「初雪の恋 ヴァージン・スノウ」　来年公開「僕の彼女はサイボーグ」

二月に行われた記者会見や撮影現場の模様をテレビでご覧になった方も多いと思いますが、映画『僕の彼女はサイボーグ』のロケが神戸で行われました。この作品は、『猟奇的な彼女』や『僕の彼女を紹介します』で知られている韓国のクァク・ジェヨン監督が日本映画を監督しているもので、主演は綾瀬はるかさんと小出恵介さん。未来からやってきた少し乱暴だけど可愛いサイボーグ『彼女』と、控えめな青年、『僕』こと、ジローとの時にはおかしく、ときには切ないSFラブ・ストーリーです。

撮影は今年の一月十七日に神戸でクランク・イン。三月五日までの約七週間に渡って旧居留地、南京町、三宮駅周辺、神戸大学、モザイク、御影公会堂、兵庫県公館など、神戸市内の各所で行われました。天気にも恵まれ、撮影は無事終了。公道を封鎖して撮影したカー・クラッシュのシーンあり、大勢のエキストラに参加していただいた、二人が逃げ回るシーンあり、ショッピングや食事のシーンあり…。本当に様々な撮影が行われましたが、これもすべて施設や店舗、警察、県および市の関係部署、そして見守ってくださった大勢の市民のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

撮影は今後、場所を変えても

「僕の彼女はサイボーグ」記者会見で、旧居留地15番館をバックに

う少し行われ、作品の公開は、来年になります。また、近づきましたら、撮影時のエピソードやロケ地について、詳しくご報告させていただこうと思っていますので、お楽しみに。

公開といえば、来月には映画『初雪の恋　ヴァージン・スノウ』がいよいよ映画館に登場です。この作品は、韓国からの転校生・ミンと日本の高校生・七重の、すれ違いながらも惹かれあうピュアなラブ・ストーリーで、「王の男」で日本でも大人気となったイ・ジュンギさんと日本の若手実力派女優、宮崎あおいさんが主演しています。監督は、この作品が映画監督デビューとなる韓国のハン・サンヒ監督。物語の舞台は、京都とソウルなのですが、実は、神戸でも、異人館街の北野町広場（風見鶏の館の前の広場）、異人館通り、ハーバーランドのモザイク二階デッキにおいてロケが行われました。

5月公開の「初雪の恋　ヴァージン・スノウ」©2007 角川映画・CJ Entertainmant・Dyne Film

撮影日は昨年の九月二十七日の水曜日。ちょうど秋の修学旅行や観光旅行のシーズンで、北野町広場には、たくさんの高校生や観光客の方々が訪れていましたが、「映画の撮影です。すみませんが、どうぞお静かに…」とお願いすると、みなさん興味深く撮影の成り行きを見守ってくださいました。

また、モザイクの二階デッキでは夕景を狙っての撮影でした。みなさんご存じのように、モザイク・ガーデンの観覧車は、通常、陽が落ちないと電飾が付かないのですが、この時はモザイクさんのご協力で、まだ明るいうちからライトアップいただき、無事に撮影を終えることができました。

余談ですが、この日は本作の撮影が終わった後、NHKドラマ『スロー・スタート』の撮影が、同じくモザイク前の高浜岸壁で行なわれました。このように、モザイク周辺は人気の撮影スポットになっています。神戸っ子にとっては、嬉しいですよね。しかも、今回は、北野町広場とモザイクが、主人公が訪れる「海に面した開放的でオシャレなまち」という神戸の象徴として登場。どのようなシーンで神戸が使われるかは、見てのお楽しみということで…。映画『初雪の恋　ヴァージン・スノウ』は五月十二日（土）よりシネカノン神戸で公開されます。

さて、「田中まこの神戸が撮っても好き」も、すでに連載が三年目に突入しました。今後は毎月ではなく、みなさんにご紹介したい作品があるときに登場させていただこうと思います。そのかわり、これまで以上に内容の濃いものをお届けしますので、どうぞお楽しみに！

田中まこ
大阪府生まれ。少女時代を米国で過ごし、大学卒業後は番組制作、撮影のコーディネート、DJなどを手がけ、2000年より神戸フィルムオフィス代表に就任。全国フィルムコミッション連絡協議会副会長としても活躍。2003年には国土交通省の「観光カリスマ」に選定される。アジア・フィルム・コミッション・ネットワークの副会長も務める。
神戸フィルムオフィス
神戸市中央区港島中町6・9・1
神戸国際観光コンベンション協会内
☎078・303・2021
http://www.kobefilm.jp

マネシ・ビー・グルラジャニ。神戸をこよなく愛する男と言っても過言ではない。「神戸で生まれ、神戸で育ち、神戸の街が大好き、私のホームグランド」と。グルラジャニ家は戦前横浜で商売をし、戦後拠点を大阪へ移し繊維および電化製品の輸出入業を始める。平成元年に父と兄と共に、神戸に㈲AAAコーポーレーションを設立。以来インポートブランド商品や電化製品、不動産業を営む。現在楽天市場に「ファッションと貿易の街　神戸」と題した、インポートブランド商品等を扱うインターネットショップを設け、ネット販売にも力を注ぐ。「インターネット販売の場合は、お客様に商品を手渡しできない。だから店頭販売に負けないサービスと価格を心がけ、一つ一つ心を込めて販売しています。」と語る。お客様に対する〝想い〟が溢れアクセス数も増加中。商品は同じでも得した気分にさせてくれる。

また神戸の活性と人と人のつながりを大切にする〝KYKK〟という異業種交流会を主催。KYKKとは「金曜の夜は神戸で決まり」の頭文字。ネーミングから神戸の街に対する熱い想いが伝わる。

KOBECCO
2007

MANESH B GULRAJANI

マネシ・ビー・グルラジャニ
㈲AAAコーポレーション 常務取締役
http://www.aaa-corp.co.jp

I LOVE KOBE

ショッピングサイト
http://www.rakuten.co.jp/aaa-corp/
KYKK
http://www.project-kykk.com/

KOBECCO
2007

Juri Mihara

三原 珠里

アーティスト

詩人、映画を詠む

湧いてくるのか。舞い降りてくるのか。探す訳でもない。見つける訳でもない。ただそこに浮かぶ言葉を紡ぎ、一編の詩を編み上げる。そして詩は音に魂を捧げる。二次元から三次元へと変化するように、詩は音楽を纏いイメージが浮かび上がる。

その音楽から生まれ出ずるイメージを映画にする。毎年三田で開催される「青空美術場」に出展、今年はその4作目に挑む。企画、脚本、音楽、主演とこなす。「詩、そして音楽から派生した妄想のサブリミナルが繋がり、ストーリーになる。それを映画を媒体に表現しただけ。でも、詩は一人でもできるけど、映画は地域やみなさんの力なしではできない総合芸術なのです」。映画の舞台が北神戸や三田なのは、彼女の日常がそこにあるから。根源は日常なのだ。

中学生の時から30冊ものノートに書き綴った詩。二十歳の頃読みふけったカフカ。すべての言の葉に注がれた光を糧として、スクリーンに花を咲かせる。空蝉のこの世に、そっと。

flsデンマークショップ
北欧フェア

- 5月3日(木)ファッションショー
- フェア期間中に豪華景品が当たる応募キャンペーン実施
- フェア期間中セール実施
- 同時期にネットのショッピングサイト(ヤフー・楽天)でも北欧フェアを開催

■自社ショッピング サイト
http://www.kobefls.jp/
■YAHOO!ショッピング
http://store.yahoo.co.jp/fls/
■楽天市場
http://www.rakuten.ne.jp/gold/fls/

ECOX
新作お試し
キャンペーン

期間: **3月31日(土)~4月22日(日)**
場所: **flsデンマークショップ**
ECOX対象商品を含めて21,000円(税込)以上
お買い上げいただいたお客様にストールをプレゼント

神戸旧居留地のゴールデンウィークイベントといえばflsデンマークショップの「北欧フェア」。

オシャレな洋服とカワイイ雑貨で多くの観光客を楽しませてきたイベントが今年も開催されます!

5月3日(木)には店内にてファッションショーも行なわれ、最新の神戸ファッションがいち早くチェックできます。

また、同期間にflsのネットショッピングサイトでも「北欧フェア」を開催。こちらもお買い得な商品やキャンペーンを行なっておりますのでぜひご覧下さい。

flsデンマークショップ
神戸市中央区三宮町2-4-1
TEL.078-327-2645
営業11:00~19:00

flsデンマークエコライズショップ
神戸市東灘区向洋町中2-9-1
神戸ファッションプラザ3F
TEL.078-846-2704
営業11:00~20:00

整備工事を終えた大灯籠と大神門

大楠公六百七拾年祭

湊川神社 御社殿修復事業

本殿遷座祭　平成十九年 五月一日(火)午後　七時斎行

本殿遷座奉幣祭　平成十九年 五月二日(水)午前十一時斎行

大楠公(横山大観筆)

御帳台(御神体の御座所)の一例

昭和27年当時の遷座祭

本殿遷座祭とは、本殿の屋根を葺き替えをするときなどに、鎮まります神霊をお遷しするお祭で、神社における最も重儀の祭とされます。

本殿を修理するに先立ち、神霊を、仮の本殿を定めて、これにお遷り戴くのを**仮殿遷座祭**と言い、当神社では、去る一月二十六日夕刻浄闇の中、本殿から仮殿へお遷り戴きました。

御本殿修理の竣功の暁に、神霊は、もとの御社殿にお還り戴かねばなりません。その仮殿から本殿への神霊お遷りの祭を**本殿遷座祭**と言います。この祭も、古式に則り、浄闇のなか粛々と斎行されます。当神社の本殿遷座祭は、来る五月一日(火)午後七時から行われる予定です。

翌日には、**本殿遷座奉幣祭**といって、氏子崇敬者等参列のもと、天皇陛下よりの御幣帛を奉り、神霊には永くお鎮まり戴くと共に、その御神威がますます発揚されますよう願う祭が斎行されます。

神霊の鎮まり坐す本殿の内陣には、御霊代(みたましろ)といって、神霊の依ります御神体を安置する御帳台が据えられています。そしてその周りには御神宝が納められていますが、当神社には、横山大観の筆になる「富士山」絵の屏風が納められております。この屏風絵は、昭和二十七年、現本殿竣功時に奉納されて、内陣奥深く安置されたもので、それ以来誰の目にとまることなく、いわば、知られざる大観絵となっているものです。

♥ブライダル対談

社会の基本は家庭、その根底にあるのが〝結婚〟です

生田神社宮司 加藤隆久さん
株式会社エス・アライアンス 代表取締役 杉之原良平さん

最良のパートナーとの出会いの場を提供している「セレブライダル神戸」の杉之原良平さんと加藤隆久宮司に、結婚、家族についてお話いただいた。

〝紀香さん効果〟は凄い

杉之原　先日話題をよんだ陣内さんと紀香さんの結婚式は、今までの結婚式のスタイルを変えたという印象ですね。

加藤　そうですね。陣内君と紀香さんは古式にのっとった束帯と十二単で、豊作を祈る「祈年祭」に式を挙げたばかりか、高砂人形を飾る由緒正しい結納式まで大安吉日に行ったんですよ。これは、現代の日本人が忘れている「正しい結婚」を日本中に披露してくれたと思っています。

杉之原　紀香さんが生田神社で結婚式を挙げるというのはどういういきさつで？

加藤　紀香さんは、今年120周年を迎える神戸の親和学園出身です。親和女子中学には生田さんをおまつりしていますし、大学卒業の謝恩会は生田会館でやっています。縁のある神社だと思っていたところ、あの震災で倒壊した生田さんの姿を見て心を痛めていたようです。ところが、しばらくして宮司までがヘルメットかぶって奮闘し、1年もたたずに蘇ったのを見て、「結婚するなら生田さんで。そして震災で打ちひしがれた神戸の人たちを励ます力になりたい」と決めていたようです。そして、加古川市出身の陣内君とご縁があり、念願どおり、生田さんで式を挙げることになったんです。紀香さん効果は凄いものがあり、正月三が日過ぎても若いカップルがあやかりたいと行列しています。神戸の観光スポットのようになっていますよ。紀香さんの経済効果が120億円という報道もあり、びっくりしましたね（笑）。ともあれ、暗いニュースが多い中、神戸に明るさをもたらしてくれました。

杉之原　この結婚式を見て、「結婚しよう」という気持ちになる若い人が増えれば、すばらしい紀香さん効果といえますね。

加藤　「三歩下がって付いて行きます」という謙虚なコメント

も良かったですね。紀香さんが身に付けた装束は京都で特注した豪華なものなんですが、それをレンタルし、収益をカンボジア・アフガニスタンの貧しい子どもたちのために寄付するということです。しっかりした考えを持ったすばらしい女性です。これにも、あやかって欲しいですね。

家族、家庭、夫婦のあり方を見直す

杉之原　最近は晩婚もしくは、結婚しない人が多く、その結果が小子化につながっています。こういった社会的な風潮の原因はどこにあるのでしょう？

加藤　マスコミ、メディアの影響もあるでしょうが、根本は家族や家庭というものの崩壊ではないでしょうか。日本には伝統的なしきたりを重んじる家族制度がありました。子は親に孝を尽くし、親は子を慈しむ。その絆の根底にあるのが夫婦、つまり結婚です。

杉之原　今の若者は親に帰属して生きようとしています。いわゆるパラサイトシングル。そのほうが楽ですからね。しかも、親もそれを赦して、独立を勧めようとしない。どうせ言っても聞かないから言わない、怒らない。これが優しさだと勘違いしているのでしょうね。家族としての規律がなくなり、親の威厳もない。

加藤　特に親父の威厳がなくなってしまった。その上、女性は自由奔放に生き、子どもとのスキンシップを拒否する母親までいる。親と子がバラバラになっています。今改めて見直す必要があるでしょうね。

神戸はブライダル都市！

杉之原　セレブライダル神戸も8年が過ぎ、100組を超えるカップルが誕生しました。皆さんが、こんなふうに結婚後の様子を知らせてくれます。子どもが生まれて、成長していく様子を見るのは、こちらも幸せな気持ちになりますね。結婚式も「海外で」というカップルと、「純和風で」というカップルと両極化しています。神社で結婚式を挙げたカップルもいますよ。続いてくる「お宮参り」「七五三」での儀式の様子も知らせてくれています。

加藤　それは素晴らしい！　そもそも神社は地域のコミュニティーセンターですからね。

杉之原　生田さんでの紀香さん挙式をきっかけに「神戸はブライダル都市」だとアピールしていきたいですね。

加藤　そうですね。結婚式を挙げるなら神戸で！　そして、神社で！（笑）

セレブライダル神戸は、成婚を目的とした会員制の結婚相談所です。

CELEBRIDAL
KOBE

セレブライダル神戸
神戸市中央区海岸通5番地商船三井ビル2階
☎078−392−3741
http://celebridal.jp